

主催者の感想

- 講演会当日は、たくさんの方に参加していただきました。冒頭よりどっと笑いが起こり、観客の目が高座にくぎ付けになりました。細い身体を巧みに活かしての動物園の落語では、本物のトラの姿が浮かんできたほどです。チューブを使ったエアリハは、そんな先生のリードもあってみなさん、思いきり身体をねじり、顔をゆがめて『ぎゅーーーーっ！！』と叫びながら、肩甲骨を寄せていました。転倒防止、バランスの講話の際には、会場からモデルを選出し、楽しく、そしてわかりやすく解説していただきました。観客の中でも特に男性の方たちが熱心にメモをとられていたり、平日の日中にもかかわらず、20代から30代の介護職の方たちが座られていたのが大変印象的でした。（介護予防講演会）
- 先生が、会場に入って来るなり、参加者のおばちゃんたちは、イケメン先生に釘付けです。落語と体操のセットですが、落語も高齢者の方に合わせられ、話すスピードも丁寧で、大変聞きやすいです。「エアリハビリ」の体験も、まったく初めてでしたが、どこの部分をどのように鍛えるのか、丁寧に面白くお話をしてくださるので、落語を聞き笑いながら色々な体操をしている内に、アッ！という間の一時間半が過ぎてしまいました。参加された方は、体操が日常的にできるものなので、会う人会う人「あれ、やっているよ」と言った声をいただいています。（社会福祉協議会）
- 介護予防のポイントを、爆笑をとりながら流暢にお話され、楽しい実技も取り入れながら確実に印象に残る講演となりました。今も「想像で手のひらにグラスをのせて・・・」「想像で背中にご馳走をのせて・・・」等、教室で取り入れさせて頂いています。また先生は「やらなかった後悔より、やった後悔の方がはるかに良い。夢は自分が“無理だ”と思ったら、絶対に叶わない」と話されました。参加者の中には「夢を思い出すことができた」等の声が聞かれ、日常生活から少し思考を変えるきっかけにもなりました。全国の方々にも知って頂きたくお薦めさせていただきます。（奈良県 地域包括支援センター）
- 介護予防、福祉講座と聞くと、一般の方々には「介護予防なんて関係ない」「堅苦しい」「ためにはなるが、そこまでやる気が起こらない・・・」と、こういった印象が根強くあり、どうすれば住民の方々の意識が高まるのか、頭を悩ませていました。「興味を持ってくれない」「人集めが大変」という声がよくあがりますが、「エアリハ」を目の当たりにした参加者のすべてが魅了されていくのが分かりました。専門的な話が笑っている間に頭に入り、体も汗ばむほど動かし、そして90分がアッという間でした。参加して、「楽しかった」「介護予防に対する意識が高まった」と有意義な感想を多数いただきました（兵庫県 地域包括センター）
- まず、第一に感じたのは、笑いの持つ力です。私の後ろの席にいた、ご婦人団体の大きな笑い声、「そう、そう」といううなずき。もしかしたら、いつもは一人テレビの前で、ため息をついていたのかもしれない。動かない身体と、自分の遣り残した夢を見比べているのかもしれない。その方たちが、会場の中、顔を見合わせながら、笑いと思いと共有している姿は、非日常のはじけた感情であることを感じさせ、会場ならではの、仲間と一緒に、笑いの力を実感いたしました。こうした笑いが日常のなかで如何に不足していることか。さらに、ご婦人が9割以上の会場の中、一生懸命相手をしてくれる、イケメン先生の存在は、日頃、ときめきから疎外されている方たちにとって、特別なものであるような気がします。年をとって分かることですが、心はいつになっても、少年少女なのです。その笑いと共に、ゴムチューブを電車のつり革に通し引っ張っている姿、コーヒーカップを頭に載せて、トイレに入っている姿等々、残っている強烈な印象と共に、リハビリの方法も、しっかりと頭のなかに刻み込んだのではないのでしょうか。「エアリハ」の想像力と、動かしている筋肉、筋を意識することの大切さも良く分かりました。（大分県玖珠町）